

院長のひとりごと2

テーマ「開院十五周年に思うこと」

来る六月一日で福岡新水巻病院は開院一五周年を迎えます。大きな事故、事件もなく過ごして来られたのも職員の皆様、地域の皆様のご理解・ご協力があつての事だと考え、大変ありがたいことです。

一五年を振り返って地域に対して貢献できたと考えること。第一に地域医療、高度医療の充実を図り、救急医療の充実、地域完結型の医療、病診連携、病病連携が図れたことです。一五年前にはこの地に無かつた医療を展開できたと自負しております。特に救急医療については地域の皆様の安心、安楽を提供しているものと思います。第二にこの規模の病院ができることで人の流れ、物流が変わつたことです。

その結果、交通量が増え、これまで無かつた渋滞を生んだりもしました。多くのスーパーがオープンし、便利な街に変わつてきたと思います。第三に看護助産学校、助産院を併設したことで若い学生たちが集まり、活気に満ちたことです。毎朝学生たちが駅から歩いて登校する姿は壮観でもあります。学校の卒業生のうち三分の一が当院へ就職することで地域に根差した職員が増えています。もちろん残りの卒業生も東京をはじめ全国で活躍しています。当院は九州中から医師、看護師他、医療職を多く採用しています。経験者はさらに関東を始めとし、関連施設へ国内留学の形で派遣しています。

今後に向けて。まず第一に病院のアメニティーアップのため大規模な全面的リフォームを今月より行います。第二に要望の多い新設科の実現に向け協議します。第三に私を含め部長クラスが還暦に近づきましたので若返りを図ります。(部長職を若手に任せるという意味でこれまで以上に常勤の職員は大事にします。)第四にヘリポートの建設を考えています。第五に予防医学の充実、つまり特定検診の受診率があまりにも低いので町とも協議しこれを推進していきます。

選挙公約のようになりましたが、十五周年を迎えるにあたって、気持ちをリフレッシュするつもりで今後も励んでいきたいと考えております。ご意見等ございましたら、どうぞよろしくお願い致します。ちなみに15周年で四十五歳と若かつた院長の私も還暦を超えましたが、もう少し憚りながら続けたいと考えておりますので……。

平成三十年五月二十九日 藤井 茂

第二十章

